第315回吉良義央公毎歳忌・岩瀬文庫特別講座

吉良さんの遺徳をしのび、語り継ぐ

吉良上野介義央公の毎歳忌が、命日にあたる12月14日に華蔵寺で行われました。直系の子孫である旧米沢藩上杉家17代当主の上杉邦憲氏をはじめ、市内外から大勢の方が参拝し、その遺徳をしのびました。終了後、「義央の子供、孫たちの運命」と題した岩瀬文庫特別講座が横須賀ふれあいセンターで開催され、講師の上杉氏は、忠臣蔵が史実と異なることを示すエピソードや吉良家と上杉家の幾重にも重なるつながりを語り、200人を超える参加者は興味深く聞いていました。

平成30年西尾市成人式

新たな一歩で「飛躍」を誓う

平成30年西尾市成人式が１月７日、総合体育館で行われました。会場には、スーツや振り袖など華やかな衣装を身にまとった新成人が集結。久しぶりに再会した友人と手を取り合って喜んだり、記念写真を撮ったりして楽しんでいました。式典では、新成人を代表して原敦也さんと早川伶奈さんが誓いの言葉を述べ、今後の大いなる飛躍を決意しました。アトラクションでは、各中学校の代表者によるじゃんけん大会が行われ、会場は大いに盛り上がっていました。

にしお駅伝フェスティバル2017

風ニモマケズ坂ニモマケズ

12月17日、にしお駅伝フェスティバルが愛知こどもの国で開催されました。会場をこどもの国に移してから６回目となる今回は、高校一般やフレンドリーなど全７部門に233チームが参加。選手たちは厳しい上り坂を含む周回コースに果敢に挑み、冷たい風にも負けずアンカーまでたすきをつないでいました。

てんてこ祭

奇妙な動きで五穀豊穣を願う

県指定無形民俗文化財の「てんてこ祭」が１月３日、熱池八幡社で行われました。平安時代から伝えられてきたとされるお田植え神事。赤装束の厄男たちは太鼓の拍子に合わせて腰を振り、ゆっくりと練り歩きました。

西尾市消防出初式

防火・防災へ気を引き締める

１月６日に、西尾市消防出初式が文化会館南側駐車場で行われました。消防職員と消防団員総勢約460人に加え、はしご車やポンプ車など22台の消防車両が集結。規律正しい分列行進などで消防力を発揮しました。かくし絵の披露では、制作した一色分署員と機能別消防団西尾北部分団員が一斉に放水。七福神に扮したマスコットキャラクターが乗る宝船が浮き上がると、訪れた約1,500人の観客から歓声が沸き起こりました。

ぶらりんウォーク・西尾高校体感ウォーク

赤い電車とこれからも

地域の大切な交通手段である名鉄西尾・蒲郡線（にしがま線）。その存続を願い、沿線でウオーキングイベントが相次いで開催されました。12月10日に行われたのは「第１回ぶらりんウォーク」。三河鳥羽駅から蒲郡駅までの約20kmのコースを、参加者は海岸沿いの景色を楽しみながらそれぞれのペースで歩きました。12月21日には西尾高校の「第９回体感ウォーク」が行われ、こどもの国駅から市役所までの沿線約20kmを、１・２年生の生徒約720人が歩きました。生徒たちは沿道の声援に応えながらゴールを目指し、通学でも利用しているにしがま線の存続をアピールしました。

日本一サミット

お互いに日本一を全力で紹介

12月13日、西野町小学校で「日本一サミット」が行われ、西野町、一色東部の両小学校３年生が、地域の特産品について調べた成果を披露しました。西野町小学校の児童は抹茶ができるまでの工程などを発表。抹茶に関するクイズが出題され、大いに盛り上がりました。一色東部小学校の児童は劇を織り交ぜ、えびせんべいとウナギの生産の歴史などを紹介。分かりやすいよう工夫された発表に拍手が送られました。それぞれの発表の後には、抹茶の振る舞いやえびせんべいの食べ比べ、ウナギのつかみ取りが行われました。みんな笑顔で楽しみ、西尾の特産品への理解を深めていました。

トヨタ自動車スケート部によるスケート教室

五輪選手から滑りを教わる

トヨタ自動車スケート部によるスケート教室が12月20日、愛知こどもの国駐車場内のスケートリンクで行われ、東幡豆小学校の１・２年生児童が参加しました。指導したのは、ショートトラックで五輪に４度出場した寺尾悟監督や、２月に韓国で開かれる平昌冬季五輪の代表に決まった横山大希選手、伊藤亜由子選手、菊池純礼選手など９人。氷上での立ち方や足の運び方などのアドバイスを受けた児童は、選手と一緒に氷の感触を楽しんでいました。中にはすぐに「こつ」をつかみ、スイスイとリンクを滑る児童もいました。

ジャンボカルタとり

大きなかるたへ一目散

１月２日～４日に、愛知こどもの国でジャンボカルタとりが行われました。使われたのは、職員が手作りした子どもたちの背丈ほどもある大きなかるた。動物や食べ物、ことわざにちなんだ札が読まれ、「小学校低学年の男の子」や「お母さん」などの対象者が告げられると、参加者はかるたを目指して夢中で走り出しました。各日２回行われ、それぞれ約100人が参加。小さな子どもから大人まで幅広い年代の人が、終始笑顔で正月遊びを楽しんでいました。